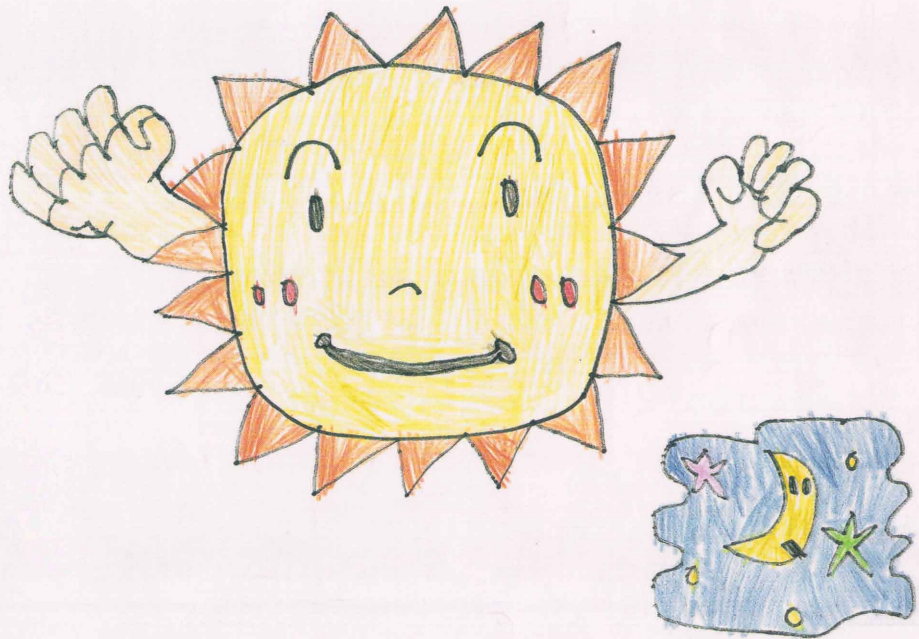


てのひら



仙台市
手をつなぐ育成会 通信



「元気はつらつ！」
大野田はぎの苑
西城 将秀さん

●発行日／平成23年10月31日
●発行／社会福祉法人 仙台市手をつなぐ育成会 下元 勝義
●編集／会報編集委員会
●印刷／社会福祉法人 共生福祉会 萩の郷福祉工場
仙台市青葉区五橋2-12-2 ☎022-211-5030
仙台市太白区鉤取御堂平38 ☎022-244-0117

てのひら

題字「てのひら」は仙台市手をつなぐ育成会親の会が障害者本人の人生を支え合う親の手の象徴として名づけられました。「てのひら」は、つつむ・にぎる・ひらく・のせるなど人に対する温もり・優しさ・厳しさ・大きさなどを伝える大切な伝達手段です。



『東日本大震災 ～震災体験談～』

Part2



『東日本大震災』

～震災体験談～ Part 2

今回の震災にあたり会員の皆様に体験談を募集いたしましたところ、たくさんの皆様から貴重な投稿をいただきました。前回24号に続きまして皆様からお寄せいただいた体験談を掲載いたします。

3月11日(金)、本当はボランティア感謝会でした。

その途中で大きな地震がありました。まずはとりあえず外に避難しました。

私は泣きました。ボランティアさんが大きな声で「危ない」と叫んで、私を安全なところへ避難させてくれました。

私はずっと泣いていましたが、ボランティアさんが励ましてくれました。

地下鉄が止まってしまい、結局みんなで長町小学校の図工室に避難しました。

私は、とても寒くて具合が悪くて、用意してもらった食事が食べられませんでした。

私はずっと横になっていたけれど、また余震が来て心臓まで驚いてしまって、「私は死ぬかもしれない」と思いました。私は、こんな経験をして人って難しいところもあるんだと知りました。

職員のみなさんが、利用者の保護者に電話をしていますが、地震だから圏外でした。

でも職員さんは一生懸命電話をされていて、その後やっと通じてつぎつぎと保護者が迎えに来ました。

その様子を見て「職員って大変な仕事をしているなあ」と感じました。そして私も「頑張りたい」と思いました。

職員もいろいろ大変なことがあっても利用者の傷を癒してくれる。ボランティアさんと職員がたくさんコミュニケーションをとってくれて、安心しました。嬉しかったです。

そして私も職員やボランティアさんようになってみたいと思いました。

いつも、「こぶし」は楽しいです。これぞ、「こぶし仲間」ですね。みんな大好きです。

こぶし利用者 佐々木 ゆいさんからの投稿



震災を体験して

その1) 3月11日 震災の日 とても助かったな…と思ったことは、娘が作業所に泊めて頂いたことです。

あの日停電になり、携帯も繋がらず災害時に備え何度も練習した災害伝言ダイヤルも不通。その上、近くの橋が通行止めという事もあり迎えに行く事が出来ませんでした。翌朝迎えに行くと「皆一緒に良かった」と笑顔の娘。聞けば支援員の方々の計らいで、当日迎えに行くことが出来た保護者に、今方帰っても大変だから施設に泊まるよう勧めて下さったそうです。その気遣いに心強く思いました。あの一泊があったからその後の日々を落ち着いて過ごすことが出来たのかな…と思います。

その2) 町内会の会長さんはじめ、皆さんに声掛けや食糧など気にかけて頂き、震災を機に皆に見守られていたのだと再確認しました。

その3) 当日の夜 ラジオで何ヶ所かの施設の安否情報が流れていました。できれば全部の施設の情報があつたら良かった。

泉手をつなぐ親の会保護者様からの投稿

あの日工房しらかば通所3年目の自閉症の次女は職員の方に付き添われ帰宅できました。外壁・室内の惨状にさすがに茫然としておりました。自宅が一番近い利用者ということもあり、すぐに思いついたのは所長さんが何度かお話しされていた「大きな災害時、地域の避難所が難しい時はここへ」という言葉でした。夜外から見たしらかばの灯りは、とても心強く感じ、私自身の平常心を保つきっかけだったと思います。その後の私達親子の精神的なささえであり原動力となったのは、やはり職員の方々全員と地域の友達、近隣の方々そして家族でした。そんな中で、我慢大会のような状況下の次女が見せてくれる小さな臨機応変にどれだけ救われたことが。

そして3ヵ月、あの日以来自分に何が出来るのかと考えてしまいます。行き着くのは必ず「自分達の生活を粛々とできるだけ元気に続けていくこと」なのです。長く続くための頑張りを心がけていけるように。

工房しらかば保護者様からの投稿



震災当日、体調を崩した私は娘に付き添われて病院へ行き、そこで一晩過ごしました。

その間に息子が施設から送って来てもらい、家族不在のため再び戻って行ったとも知らずに…。

次の日の朝早く自宅に戻った所に施設から電話がありました。

「これから送って行きますが、水も電気もなく不自由でしょうから、もしよろしければ御家族皆こちらへ避難して来ませんか」というお話しに涙が出て来ました。

結局、送って頂いた車で私と娘まで一緒につれて行ってもらいました。

施設には何人かが避難していたようでしたが、いつもと変わらず元気な施設長の声が響く中、職員さんがキビキビと働いていらしたのがとても印象に残っています。

夜は二階の和室を私たちだけで使わせて頂きました。途中何度か余震がありましたが、そのたびに職員さんが「大丈夫ですか?」とわざわざ来て下さいました。御自分たちも被災しているのにここまで他人を思いやれるこの人たちは何なの…、計らずも。この震災で「福祉の心」に改めて触れることが出来ました。

障害を持った息子が通う施設に近所でもない遠くに住む我が家が、ここまでお世話になるなんて考えたこともありませんでした。今でも感謝の気持ちと共に「あの日」のことを思い出します。

工房しらかば保護者様からの投稿



3月11日、大きな揺れがおさまった時、上空のヘリコプターから津波警報で、すぐに避難する様との呼び掛けにすぐに近くの小学校に逃げました。学校はすでに避難した人達でいっぱいでした。私は、作業所にいる息子がどうしているか心配でした。避難する時に自分の居場所を書いてこなかった事を、とても反省しました。余りの出来事で、すっかり忘れてしまったのです。暗くなってから、家に戻った時、送迎の車の明かりが見えた時、本当にホッとしました。この混乱の中、責任を持って送り届けて頂きとても感謝しています。本当にありがとうございました。

後日、東部自動車道の海側に行ってみました。そこは見なれた景色はなく、只ガレキの山だけでした。余りの悲惨さに言葉も出ませんでした。ガレキの下にはまだ見つからない人が沢山いるそうです。早く家族の元に帰えられる様に祈るばかりでした。

とちのき保護者様からの投稿

親ゆび通信
Information

14

成人を祝う会
◆ホテルメトロポリタン
仙台



すべての連絡が途絶えてしまった3月11日の巨大地震発生の日我家で一番困った事は、停電になってしまった事です。自宅には被害がなく、台所の食器数個がこわれたくらいでした。水道が使えた事も何よりでした。ただ停電ではどうしようもありません。我家の娘は在宅酸素療法を受けているのです。停電になれば酸素を供給する酸素濃縮装置の機械が使用できなくなってしまうのです。24時間以内に酸素を送り込んでくれるこの機械がないと、色々な面で不調がでてきます。あらかじめ緊急時の処置として携帯用の酸素ボンベは備えていますが、携帯用ボンベには制限時間があります。1本で数時間しか持ちません。緊急連絡で酸素会社や大学病院にも電話は通じません。あの時ほどおそろしい思いをしたのはありません。特にあの時期、娘はしょっちゅう呼吸困難を起こしていたのです。

こんな時に呼吸困難を起こし救急車を呼ぶようになったらどうしようと、私の方がパニックです。あの夜は手元に携帯用ボンベが未開封のまま5本あったので流量を少なくしたりしてどうにか過ごしました。12日地区の民生委員さんへ掛け合い、自家用発電機を持っている農家のお宅を紹介していただき、そのお宅に電気が復旧した16日まで5日間、娘と二人お世話になりました。酸素濃縮装置の機械も心よく設置させていただき、本当に助かりました。ご家族の方々も皆さんいい人達ばかりで、私達も自宅に居るような普段通りの生活をさせていただきました。本当にありがたかったです。

昔からのことわざ通り「遠くの親戚より近くの他人」の意味が身にしみてわかりました。

あれから3ヵ月がなろうとしているのに、今だに収まらない余震にハラハラ・ドキドキしながら過ごしている今日この頃です。

大野田はぎの苑保護者様からの投稿

予想をはるかに超えた未曾有の震災という東日本大震災、何もかも想定外。

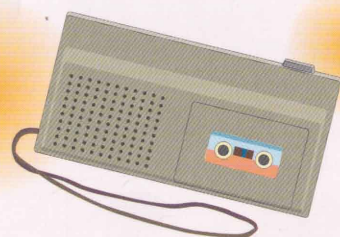
幸い我が家は、被害が少なく避難所へ行くことなく家にいられたことが一番ホッとするところでした。

ライフラインが使えなくなり、十数年前、友人の引越の際にいただいた使い古しの反射式ストーブを物置から引っ張り出し、火がついた時には胸をなでおろしました。

しかし使ってるうちに目はちかちか、最悪はガス警報機が換気してくださいと鳴り出してあわててしまったことです。

娘は余震におびえおろおろ排泄の失敗も多く、おまけに足の指がしもやけになりました。震災に備えて、娘の物は準備しておきましたがもう少し準備をしておくべきだと反省。まさか、買い物に長蛇の列ができるなんて、誰が想像したでしょうか。

ホープすずかけ保護者会様からの投稿



施設ほうゆうではラジオにて安否報告がなされ、安心できました。宿泊した利用者もいましたが、次の日には全員帰宅できました。

隣に老人ホームがあるので、入浴施設の開放をしていただき助かりました。

今後、宿泊することを考えて、「くすり」の預かりを開始することにしました。保護者への携帯メール一斉送信する準備をしています。

泉手をつなぐ親の会保護者様からの投稿

知的障害児者・自閉症児者のための生活サポート総合補償制度

①入院給付（付添介護、入院時室料差額、入院諸費用、入院一時金）

病気やケガまたはその検査のため入院したとき

②賠償責任保険金（限度1億円）

他人にケガをさせたり、他人のものを壊して法律上の賠償を負ったとき

③死亡・後遺障害保険金、入院・通院・手術保険金

ケガをしたとき

天災特約付

④葬祭費用保険金（弔慰金）

病気で死亡したとき

年会費

17,000円

宮城県知的障害児者生活サポート協会

担当代理店 株式会社ジェイアイシー 南東北営業所

〒983-0836 仙台市宮城野区幸町4-6-2 宮城県障害者福祉センター内

〒980-0804 仙台市青葉区大町1-2-1ライオンビル4F TEL022-265-0010 FAX022-264-0081

3月11日、花梨は秋保での年度末慰労会の帰り道、バスの中であの震災に遭いました。車中は船が荒波に揺れるような感覚でしたが、車窓からはガソリンスタンドが倒壊したり、電柱が倒れているという信じられない光景を目の当たりにしました。

ほどなくバスは花梨に到着、玄関を入ると靴箱が倒れ、事務室は書類が散乱し、大きな糸鋸も倒れていました。近くの学校に避難しようとしたのですが、既に地域住民でいっぱいだったため、建物の被害を確認して花梨で待機することになりました。半分近くの保護者が迎えに来てくださいましたが、陥没した道路と信号の消えた渋滞の街中を必死になって車を運転したり、1時間もかけて暗闇の中を歩いてきたその姿には、頭の下がる思いで本当に心から感謝しております。

家族と連絡が取れなかった20名の利用者さんと職員は、花梨で一晩を過ごしました。非常食で夕ご飯を済ませ、食堂に布団を敷き、寒さをしのぐためダンボールやビニールシートまでかけて休みましたが、寝る前にちゃんと歯磨きをする方、いびきをかいてスヤスヤ寝ている方、そのたくましさは実に心強かったものです。利用者さんも本当は早く自宅に帰りたいはず…でもその気持ちを恐らく我慢して、職員を信じて、落ち着いて過ごしてくれたのだと思います。絶え間なく続く余震、赤々と燃える東の空、一晩中鳴り響いていたサイレンの音、そしてあの津波の汚泥はわずか2キロほど近くのところまで押し寄せていたのです。不安と恐怖。でもどこか夢の中にいるような不思議な感覚でした。

そして夜中から徐々に利用者さんを自宅まで送り届け、午前中には全員が無事家族のもとに帰りました。ひとまず安堵の思いをしましたが、このあと全員が元気に揃うまで1ヵ月近くも要するとは予想もしない、震災翌日の晴れた朝でした。そして、そこから現実との戦い・復興への始まりを歩んだのです。

ワーキングギルド花梨 職員さんからの投稿

今年度は、11名の新人職員さんを迎えました。年3回でのひら各号に渡って皆さんのプロフィールをご紹介します。今後ともどうぞよろしくお願いたします。

新人職員
皆さんを
ご紹介します!!
2



名 前：梅津 英治
(うめつ えいじ)
所属施設：ホープすずかけ
趣 味：バスケット、バイク、釣り



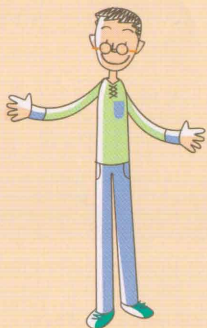
名 前：那須 愛美
(なす まなみ)
所属施設：ホープすずかけ
趣 味：カフェ巡り・読書



名 前：菅野 成貴
(かんの せいぎ)
所属施設：ホープすずかけ
趣 味：サッカー、音楽鑑賞



名 前：林 麻梨子
(はやし まりこ)
所属施設：おり〜ぶ上野山
趣 味：湘南乃風の曲を聴くこと。



●● 1日あたり約41円のご負担で、充実した保障をお届けいたします。●●

年間
保険料 **15,000円**
(Aプランの場合)

知的障がい、発達障がい、ダウン症の方をお守りする安心の保険。



ぜんち共済株式会社のご紹介

詳しい資料をお送りします。
ぜひ現地代理店に
お問い合わせください。

仙台市代理店

株式会社エフシーバンク
TEL022-348-4481 FAX022-348-4483
担当：細屋
〒981-3213 宮城県仙台市泉区南中山 3-11-18

平成12年に誕生した「全国知的障害者共済会(全知共済)」を前身として、全国各地の皆さまに安心をお届けしてまいりました。2008年にぜんち共済株式会社として新たにスタートしてから約3年。すでに約3万人の方がこの保険をご利用されています。(平成23年6月1日現在)

引受保険会社



ぜんち共済株式会社

〒101-0032 東京都千代田区岩本町三丁目5番8号
岩本町シティプラザビル5階

*この広告は商品の概要を説明しております。ご契約の際には必ず「パンフレット」「重要事項説明書」をご確認ください。

～安彦ひさ子名誉会長を偲ぶ会～

平成23年9月23日に他界された安彦ひさ子名誉会長を偲ぶ会を去る10月23日、仙台太白斎場清月記を会場として、法人主催で開催いたしました。

当日は関係者ならびにご遺族を含め約270名が参列。安彦名誉会長と親交を温めてこられました多くの方々のご出席を賜りました。

安彦名誉会長は、昭和30年仙台市手をつなぐ親の会発足時より知的障がい者福祉の先駆者として強い信念と希望を持ち、当事者やそのお母さんたちと共に寄り添いながら今日の福祉の発展に尽力されました。

会場では、安彦名誉会長のご業績を偲ぶ勲章や賞状の展示ならびにスライドショーの上映が行われ、また食事会では思い出の話題が尽きず、和やかに会が進められました。

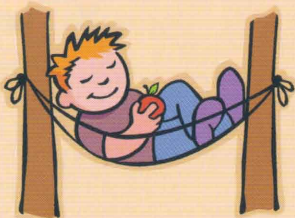
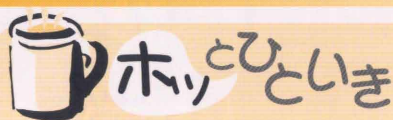
福祉の発展のため共に歩んできた多くの皆様のご参加のもと、安彦名誉会長のご遺徳を偲ぶ会を開催させていただくことができましたこと深く感謝申し上げます。



寄付・義援金御礼

当法人宛てに全国各地の皆様から温かいご支援をいただきました。心より感謝申し上げます。

| | |
|-----------------|-------------------|
| 三菱商事株式会社 様 | 全国知的障害者施設家族会連合会 様 |
| 全国社会就労センター協議会 様 | 大阪市社会事業施設協議会 様 |



震災の後、しばらくして東京へ行くことがあり、娘の家の近くのスーパーへ出かけた時のこと、東日本大震災の被災者へのためのレジ脇のペットボトルに、沢山の一万円札や5千円札が入れている様子に驚きました。大きな災害をTVで目の当たりにした日本中の人々が、みんな心を痛めて被災者への協力に動いてくれることに感動しました。そして日本人のやさしさに改めて気付かされました。

仙台市手をつなぐ育成会 入会のすすめ

活動費：300円/月

全日本育成会機関誌 「手をつなぐ」

年間購読：3,600円(各月発行)

本人が「自分らしく生きる」ために活動する団体です。

◆親としての悩みや願いに応えます。(会報の発行、各種セミナー、イベントのご案内等)

「親」と「本人」を中心にすえた「役立つ情報・交流誌」

◆福祉の活動をすばやくキャッチ! お伝えします。

◆いろいろな情報の提供、様々な見方を示しあなた自身にあった生き方のヒントを見つけるお手伝いをします。



「手をつなぐ」▲
2011年4月号